

社会福祉協議会事務局のマネジメント力向上の方法について

— 高知県との研究事業を通じて

○日本福祉大学 平野隆之 (320)
日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター 朴兪美 (1996)

1. 研究の背景・目的

社会福祉協議会 (以下、社協) は地域福祉を担う代表的な組織として位置づけられてきた。しかし、社協設立以後、半世紀が過ぎた現在、社協についての住民の認識や行政の認識は肯定的とは限らない。それには、社協事務局機能の弱体化により、社協本来の姿、地域福祉推進の協議体としての実体がみえないことが原因の一つとしてあげられる。

こうした認識に立ち、本研究では、社協事務局の力量強化を図る上で、とりわけ事務局のマネジメント力向上に着目し、その方法を明らかにすることを目的とする。ここでの社協事務局のマネジメント力とは、経営のマネジメントや協議会そのものの直接的なマネジメントではなく、社協事務局長のマネジメント力に限定する。事務局の力量の弱体化が社協組織についての否定的な認識をもたらす負のサイクルを形成しているとすれば、事務局長のマネジメント力が負のサイクルを変える一番大きな変数であると想定するからである。

2. 研究の方法

社協事務局の機能強化として事務局長のマネジメント力の強化に着目する本研究は、高知県での研究事業を通じて行われたものである。2008 年 4 月から高知県は、日本福祉大学と協定を結び、県下の市町村社協 8 か所の事務局長の参加を得て「社協活動ステップアップ研究会」を開催し、事務局長のマネジメント力の向上を図っている。この研究会で行った次の 4 つの研究テーマへの社協事務局長の取り組みを中心に本研究を行う。①地域福祉実践の履歴書づくり、②地域福祉プログラム開発 (企画書づくり)、③協議の場づくり、④事務局長の役割。

各事務局長は 4 つのテーマの中でいくつかを選択し、個別的なワーキンググループ活動を通じて研究課題に取り組んだ。この作業には、福祉保健所の地域支援室、県社協などが支援に入っている。その内容は全体研究会 (4 回) でワークショップの素材として提供され、再び検討された。

3. 研究の内容

1 年間の研究会の中で、事務局長のマネジメント力向上の方法として上記の 4 つの研究課題がどのように有効に作用したかが検討された。

①地域福祉実践の履歴書づくりは、履歴書の様式化、ルールづくりを経て、職員研修の教材づくりの素材としてまで発展した。さらに、履歴書づくりは、職員間の情報共有のみならず、社協間の比較も可能にさせるなど、社協内外的に新たな気づきの手掛りを提供した。その結果、最初 4 か所の社協事務局長が選択的に取り組み始めた履歴書づくりは、4 つのテーマの中で一番活発に展開され、参加社協事務局長全体が取り組むテーマとなり、全体研究会の核になる検討課題となった。

②企画書づくりは、プログラム開発の具体的な方法の提示までは十分至っていない。しかし、①履歴書づくりがプログラミングによる企画書づくりのベースとなることが分かった。また、各社協間の比較のために企画書の様式の統一化が課題と提示された。

③協議の場づくりについては、最初一番多い事務局長の関心が寄せられたものの、未だワークショップの中でその展開が不明確なままである。

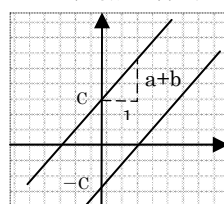
④事務局長の役割については、講演会などを通じて参加者間 (事務局長等) の理論的な合意形成に至っているが、具体的な内容までは検討されていない。

4. 結論

以上から、地域福祉推進のための社協事務局マネジメント力の強化方法について、次のことが分かる。①事務局長の役割についてのテーマは、従属的な変数の位置にあって、直接テーマとして深めきれないこと。②他の 3 つのテーマにおいて、その有効性が異なること。とくに、有効性を高める実施の順序があること。③履歴書づくりと企画書づくりの共通要素として、分析力の強化が必要とされること。④協議の場づくりは、相対的に独自の位置にあること。

したがって、上記の結論から、社協事務局マネジメント力とその向上方法に関する関数を次のように示すことができる。

< 社協事務局マネジメント力向上の関数 >



$$Y = aX + bX + c = (a+b)X + c$$

Y = 社協 (事務局長) のマネジメント力 (>0)

X = 社協 (事務局長) の分析力 (>0)

a = 既存実践の履歴 b = 地域福祉プログラム

c = 協議の場づくり

aX = 既存実践の把握・分析 (履歴書づくり)

bX = 地域福祉プログラムの開発 (企画書づくり)